

## 国際開発研究・教育探訪（４）

我が国の大学・研究機関の革新的な研究と教育の最前線の動向を読者に紹介するシリーズの第四回として、国際開発・協力分野でグローバルに活躍する女性リーダーの育成を目的として新たにスタートした名古屋大学の大学院プログラムを紹介する。このプログラムは、文部科学省「平成 25 年度博士課程教育リーディング・プログラム」に採択された『「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム』で、同大学の大学院国際開発研究科、医学系研究科、生命農学研究科、教育発達科学研究科の 4 研究科が、それぞれの学問領域の専門性を活かしつつ、5 年間一貫教育を通して、アジア途上国におけるウェルビーイングの向上のために貢献できるような女性リーダーの育成を図る横断的な共同プログラムである。

（文責：本稿は名古屋大学の当該プログラム執行委員会メンバーである岡田亜弥教授に執筆していただいた）

**実施機関：** 名古屋大学

**プログラム名称：**「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム

**プログラム代表者：**高橋雅英教授（医学系研究科長）

**プログラムコーディネーター：**東村博子教授（生命農学研究科・男女共同参画室長）

**実施支援期間：**平成 25 年 10 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日（その後もプログラムは継続予定）

**支援機関：**文部科学省・日本学術振興会

**連携機関：**外務省国際機関人事センター、国際協力機構（JICA）、国連児童基金（UNICEF）東京事務所および東アジア太平洋統括事務所、国連人口基金（UNFPA）東京事務所およびアジア太平洋統括事務所など

**面談者：**岡田亜弥教授（名古屋大学大学院国際開発研究科・本プログラム執行委員会メンバー）

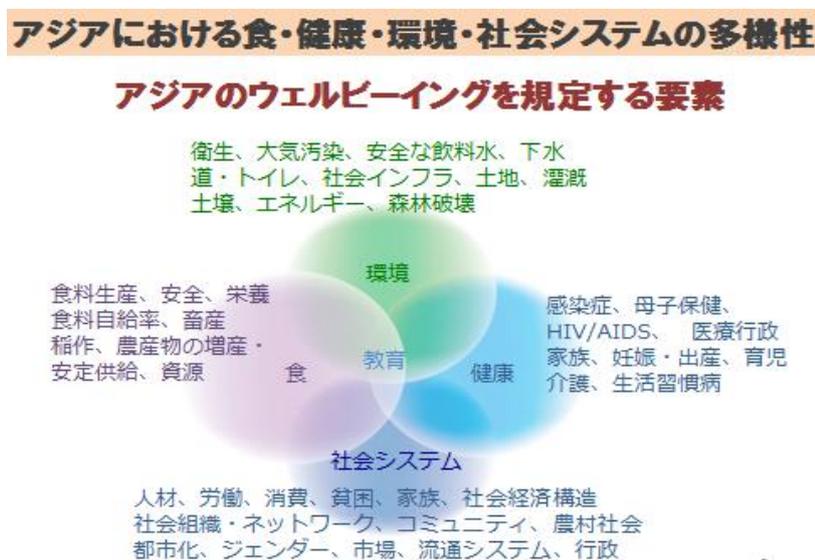
### 1. プログラムの目的

本プログラムは、さまざまな発展段階にある多文化社会アジアにおいて、ウェルビーイング（個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること）を実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的としている。具体的には、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食（量的確保、安全、栄養）、環境（衛生）、健康（医療、福祉）、社会（脱貧困）、教育（次世代育成）における諸問題を、国際開発学・医学・保健学・農学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。豊かで多様な文化を育んできたアジアにおいて、人々のウェルビーイングを実現するには、多様な価値観や文化への理解と尊重が不可欠である。多くのアジア諸国が依然として直面する貧困問題、高い妊産婦死亡率・乳幼児死亡率や生活習慣病罹患率の急増など多様な健康問題、ジェンダー格差などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野にお

ける専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべきである。

関連研究分野の連携による新たな「統合知」を目指す本プログラムは、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。また、グローバル化に伴い、こうした共通課題は、アジア各国の各分野のリーダーが協力して共に解決に取り組む必要性が増している。しかし、既に多くの女性リーダーを輩出しているアジア諸国に比べ、日本では女性の活用が著しく遅れており、女性にとって身近なウェルビーイング関連分野でさえ、女性リーダーは極めて限定的である。それゆえ、共通課題の解決に向けて、アジア各国の女性リーダーとネットワークを構築し、パートナーシップを強化するためにも、女性リーダーの育成は喫緊の課題である。

図 1 :

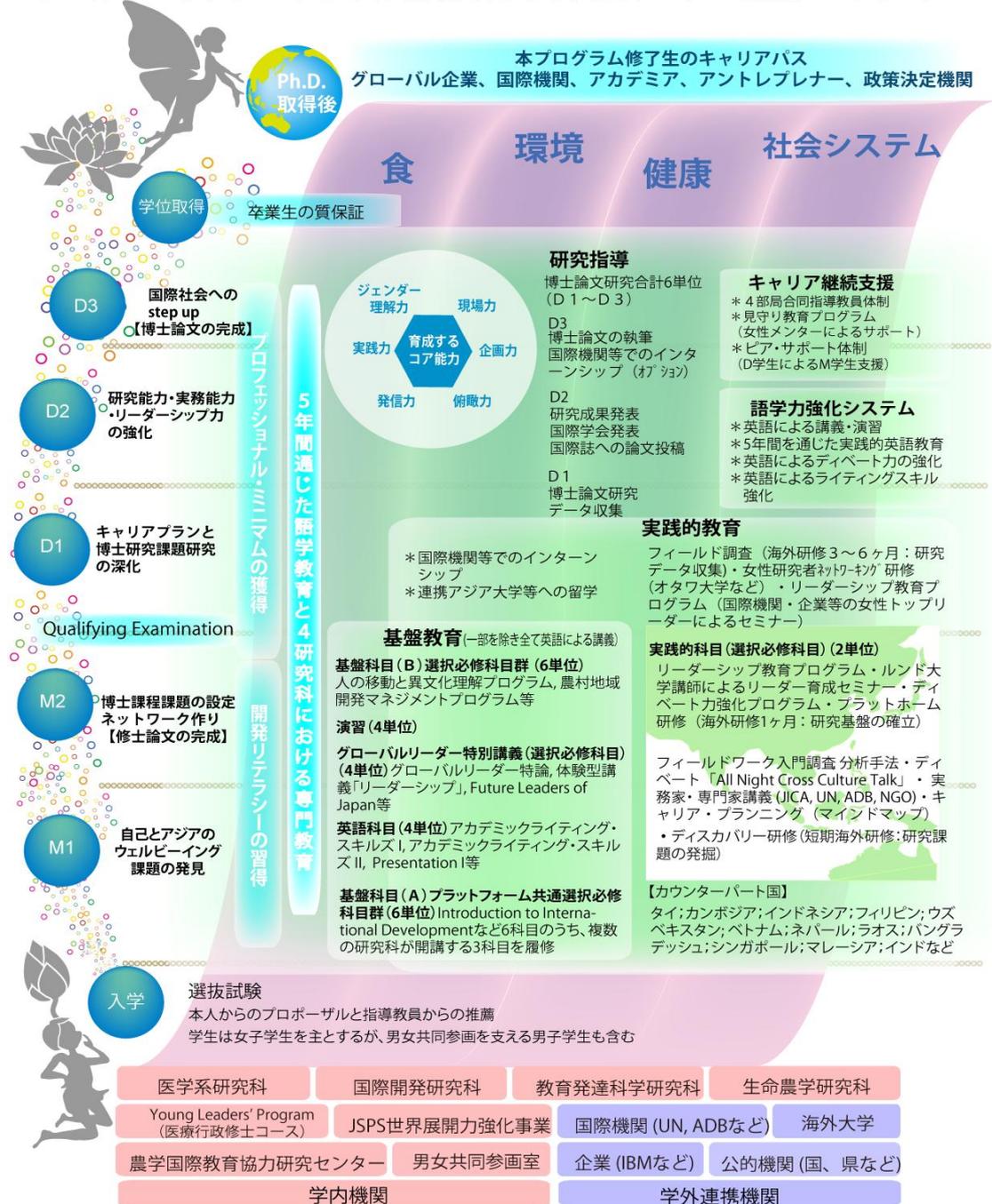


## 2. プログラムの概要

本プログラムは、図2の概要に示されているように、5年一貫の大学院学位プログラムであり、アジア各国の連携機関等における「実践的教育」、徹底した「語学力・発信力強化プログラム」、4研究科合同での副指導教員制、産官学の各関連分野のエキスパートによる「リーダーシップ教育」などを特徴とする独自の大学院教育を展開していく。国際開発、医学、生命農学、教育発達科学の4研究科に所属する女子学生を主な対象とするが、男女共同参画を支え、応援する男子学生にも本プログラムへの参加を認める。各自の専門分野における高度な研究推進能力に加え、企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力の6つのコア能力を総合的に習得させ、将来、国際開発・協力分野において、もしくは途上国・新興国に展開するグローバル企業等で意思決定を担う女性リーダーを育成する。

図 2 :

## 「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム



本プログラムは、2014年10月から正式にスタートする予定であり、毎年、通常の入学試験に合格し、上記4研究科に入学した修士課程M1学生から、アジア諸国から受け入れたトップレベルの留学生も含め、20名程度を選抜し、プログラム履修学生とする。本プログラム履修学生には5年一貫での参加を原則義務付け、本プログラムの活動に専念できるよう奨励金を支給する。人文・社会科学と自然科学を組み合わせ、学習と議論のための共通プラットフォームにおいて、異なる文化・学問背景を持つ者同士で学びあい、議論し合う環境が提供される。プログラム履修学生は、各自の所属

研究科での高度な専門教育に加え、学内のアジア留学生も含めた4研究科学内合同合宿、4研究科合同での海外実地研修、海外調査、インターンシップにより、互いに切磋琢磨する機会と実践力を獲得し、アジアにおける広い視野からの課題発掘、海外での学修研究環境の構築をめざすとともに、リーダーとしての使命感を醸成する。さらに、アジアから招聘する若手研究者とのディスカッション、国際機関や対象国の研究者、実務者からの助言により、グローバルに活躍するリーダーとしての資質を伸ばす。

### 3. 実施体制

名古屋大学大学院国際開発、生命農学、医学（医学科・保健学科）、教育発達科学の4研究科、および男女共同参画室、農学国際教育協力研究センターが協力して、研究教育支援のプラットフォームを設置している。加えて、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等で活躍するグローバルリーダー・専門家らや、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなる女性リーダーを講師・プログラム担当者として迎え、プログラムを支援する体制を構築している。

また、名古屋大学では、本プログラムを含めて、6つの博士課程教育リーディング・プログラムが採択され、展開中であり、総長直属の組織として「リーディング大学院推進機構」（メンバー：関係理事、副総長、総長補佐、プログラム責任者、プログラムコーディネーター等）を置き、総長のリーダーシップの下、プログラム運営支援や各種調整を相互に連携しながら行っており、学内教育資源の効果的活用を図っている。

### 4. プログラムの特色

アジア地域には世界の人口の半数以上の人々が生活し、異なる文化、慣習、言語、宗教など多彩な価値観を有するコミュニティで構成されている。本プログラムの特色は、これらの地域の生活の根幹をなす食・健康・生活環境・教育等の向上を目指す取り組みを進めることにより、アジアの多文化共生に資するウェルビーイングの実現のため、異文化を理解するとともに高い専門性と国際性と使命感を持って、グローバルに活躍できる女性リーダーを育成する点にある。主な特色は以下のとおりである。

#### 1) 女性にフォーカスしたアジア展開

本プログラムは、女性の活躍が著しく遅れ、女性リーダーが不足している日本において、優秀な女子大学院生を対象に、女性に特化したグローバル人材の育成に力を入れた大学院教育のモデルケースとして先駆的である。文化的多様性に富んだアジアにおいて、高度な専門性と、自立的な研究能力に加えて、ジェンダー理解力、実務能力、政策提案能力、国際性とコミュニケーション能力に優れ、かつ多様な文化を理解し尊重でき、国際的に活躍できる女性リーダーの育成を通して、ウェルビーイングの実現に貢献することをめざしている。

特に、アジア諸国において、次世代育成を含めて地域社会を支える女性の役割は大きく、これらのコミュニティに入り、課題を探るとともに解決の道筋を示すことができる女性リーダーの育成は極めて意義深い。国際的に見ても、アジアにおける女性リー

ダーの育成を中心的に担う教育機関はほとんどなく、本プログラムのユニークな点である。特に日本の中でも名古屋大学は国立大学女性教員実数増 1 位 (2012 年現在)、国立基幹 7 大学に限ると女性教員比率第 1 位の実績を有し、国際的に活躍する多数の女性研究者を有している。また、本プログラムの運営部局である国際開発研究科、医学系研究科、生命農学研究科、および教育発達科学研究科は女性教員および女子学生比率が高く、4 研究科の連携により、文化的多様性に富んだアジアにおける様々な食、健康、環境問題に精通し、その解決法を提言できる女性リーダーの育成を可能とする教育環境を備えている。

## 2) 実践的な教育を重視

本プログラムでは、国連児童基金 (UNICEF)、国連人口基金 (UNFPA)、国際協力機構 (JICA)、国連大学高等研究所などで活躍する著名なリーダーや、女性リーダーの育成に取り組む国内外の研究者・企業人による講義・セミナーを実施し、国際的な女性リーダー育成のための教育カリキュラムを実現するとともに、アジア各国で活動する国際機関・開発協力機関 (UNESCO、UNICEF、UNFPA、JICA など) においてインターンシップを積極的に実施する。

また、本学国際開発研究科は、国際開発協力コースによる開発協力専門人材の育成においてアジアを中心に豊富な実績を有しており、さらに、生命農学研究科は農学国際教育協力研究センターを中心にカンボジアなどの農業支援活動を、医学系研究科は修士課程 Young Leaders Program (YLP) によるアジア諸国の医療行政専門職リーダーの育成を、教育発達科学研究科はインドネシアの中等教育開発研修プログラムを作成する活動を積極的に展開してきた。このような経験をさらに発展させ、アジア途上国において、4 研究科合同の海外実地研修や合同調査を実施し、アジア諸国が抱える課題解決と多文化共生をミッションとしたリーディング研究を発掘・実施する能力を育成するとともに、専門分野での実践的政策分析・評価能力や交渉力、企画力、多様な文化を背景に持つスタッフとのチームワークに必要な俯瞰力・現場力・国際感覚を修得させる。

## 3) 国際機関・グローバル企業へのキャリアパス支援

本学は 2008 年より国際協力機構と包括協力協定を締結しており、2013 年に国連社会経済局とも連携のための覚書 (MOU) を締結した。また、国際開発研究科は、UNESCO バンコック事務所ならびに国際移民機関 (IOM) とインターンシップ協定を結び、毎年、定期的に 2~3 名をインターンとして派遣している。これら機関との連携の実績を踏まえ、本プログラムでは、これらの機関に加え、UNICEF、UNFPA 等の国際機関や JICA のフィールド事務所と制度的に連携し、3~6 ヶ月間、インターンを派遣する体制を整備する。インターンシップを通じて、英語で日常的な業務を行い、議論に参加し、困難な状況の中で冷静かつ総合的・俯瞰的に判断できる洞察力と国際性、さらに実践力を涵養することが期待されている。

プログラム履修生は、修了後、政府機関や、ウェルビーイング関連分野で活動する国

際機関、JICA など開発協力実施機関、研究機関やシンクタンク、開発コンサルティング企業、NGO/NPO で活躍する人材となることをめざすことから、こうしたインターンシップの経験はキャリア・パス構築という観点から有効性が高いと考えられる。また、これらの機関で活躍する女性リーダーを講師・プログラム担当者として加え、博士取得者が国際機関等でリーダーとして活躍するために必要なスキルやキャリア形成へ向けたステップについて共同して戦略を検討している。

さらに、従来より実施されている外務省国際機関人事センターや世界銀行、JICA 等によるキャリア・ガイダンスの開催を拡充し、これら機関との制度的連携を強化する予定である。学内では、女性リーダーとしてロールモデルとなる女性教員・修了生によるメンタリング・カウンセリング体制を組織的に整備する。特に、国際機関への就職には最低 2 年間の実務経験が必要であり、修了後すぐに就職できるわけではないことから、国際機関での就職を希望する修了生を対象に、継続的・長期的なサポートを提供する体制の構築を図る。

#### 4) 評価・質保証

修士課程 2 年生 (M2) から博士課程 1 年生 (D1) への進学時に、本プログラム運営委員会が定めるチームにより、研究課題、語学力習得度、ディベート力、研究成果等を総合評価し、一定の水準に達した学生のみを本プログラム D 学生として認める。プログラム修了時 (博士学位取得時) に、研究成果、コア能力「企画力・実践力・ジェンダー理解力・俯瞰力・発信力・現場力」獲得状況と研究成果を総合的に判断し、一定の水準に達した学生に本プログラムの博士の学位 (PhD) を授与する。

本プログラムへの入学時には、書面審査および面接審査と指導教員の推薦により学生を選抜し、2 年次の終わりに、公開による **Qualifying Examination** を実施、3 年次にリサーチプロポーザルを行い、それまでに研究成果に基づいた課題設定の評価を受ける。4 年次に研究成果の中間発表、5 年次に最終成果発表を行い、博士論文を完成する。

#### 5. アジアの大学・研究機関ならびに国際機関や産業界との連携

本プログラムでは、学外の JICA や、UNESCO、アジア開発銀行、UNICEF、UNFPA、国連大学高等研究所などの国際機関や、チュラロンコン大学、カンボジア王立プノンペン大学、フィリピン大学等のアジア各国の中核大学との連携・協力を強化し、国際機関の専門家や、アジア拠点大学のトップ研究者を担当教員として加えたコースワークを実施する。また、海外大学、国際機関・援助機関や、グローバルに展開する民間企業で活躍する女性リーダーや、元内閣府男女共同参画局長が幅広くプログラム担当者として加わることにより、男女共同参画視点に立ちつつ国際的な産学官連携体制を構築している。さらに、グローバル企業の女性トップリーダーによる女性リーダー育成セミナー等を実施し、女性リーダーのロールモデルを提示する。

さらに、内外の開発協力関連研究機関や実施機関との研究および教育ネットワークの

形成を進めている。こうしたネットワークを通じ、高度な実践教育を提供するため連携協力体制を構築・強化する。本学を中心に構築された国際学術コンソーシアム(AC21)メンバー大学や、国際開発研究科が JSPS「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」の一環として、チュラロンコン大学、シンガポール国立大学、王立プノンペン大学などアジア 10 カ国の中核的大学 10 校との間に構築した「開発のためのアジア学術ネットワーク (Academic Network for Development in Asia: ANDA)」のメンバー大学、そのほか海外主要大学の関連するプログラムを訪問し、これら大学の女子大学院生と研究交流・討論をする機会を設け、次世代の女性研究者間のネットワークを構築するとともに、自らの考えを明確に主張し、国際的な場で対等に渡り合える女性リーダーの育成を図る。

本プログラムの URL:

<http://www.well-being.provost.nagoya-u.ac.jp>

文部科学省博士課程教育リーディングプログラム:

<http://www.jsps.go.jp/j-hakasekatei/index.html>

## 6. 探訪を終えて

名古屋大学大学院国際開発研究科は、1991年に日本最初の国際開発・協力分野の専門大学院として設立され、当初より、ほとんどの授業は英語で行われてきた。開発途上国からも多くの留学生を受け入れ、修士号・博士号を取得した留学生は、のべ830名を数えている。そのうち80%がアジア出身で、そのうち、115名が政府中枢で幹部人材として活躍しているという。

本プログラムは、採択されたばかりで本格的な始動は来年度であるが、最近、日本政府が「女性の活躍推進」を国際社会の重要課題として取り組む政策を掲げたが、皮肉にも、日本国内での女性の活躍が未だ少なく、また女性リーダーが極めて少ないことがようやく社会的課題として認知されてきたことも事実である。その意味で、本プログラムは、国際社会の要請に応えるのみならず、日本社会のニーズにも応えるという重要課題にチャレンジしているものといえ、大変ユニークで画期的である。

修士課程と博士課程5年間の一貫したプログラム、4つの研究科による協力実施、アジアの大学とのネットワーク協力、並びにインターンシップの実施や講師・プログラム担当者の受け入れに関する外部の国際機関、援助実施機関との連携協力といった、多くの制度的な垣根を乗り越えて教育をより実践的に行おうとするのが特徴である。

このプログラムによって、博士号を持った女性のリーダー候補者が多数社会に輩出されることになるが、受け入れる側の社会が彼らをきちんと受け入れてくれるかどうかという課題も存在する。したがって、授業の中には、「どうすれば、自分達がスムーズに社会に受け入れられるようになるか」について、社会制度の改革・整備も含めて学習しておかなければならないだろう。女性リーダー育成を目的としてスタートした本プログラムは、新しい形の国際協力のモデルとしても期待されるし、今後の展開が楽しみでもある。(藤村記)